



# 定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

## 2016 年度イベント参加報告

今年も 5 月～7 月にかけて、神戸まつり、灘チャレンジ、丸五ナイト屋台の 3 つのイベントに出展しました。今年より、灘チャレンジの日程が 6 月の第 1 日曜から、7 月の第 1 日曜に変更になり、奨学生にとっては、神戸まつり、灘チャレンジともテスト期間中に近い日程になりました。

まず、5 月 15 日(日)に神戸まつりに出展しました。神戸まつりでは、数年前から東遊園地の「おまつりスクエア」に模擬店を出させていただいています。パレードの出発地点に近い場所で、模擬店の食べ物・飲み物を購入してくださる方がたくさんいらっしゃいます。メニューは鶏からあげ、フランクフルト、揚げ餃子、フライドポテト、チヂミ、缶ビール、お茶などを販売しました。奨学生も 5 名参加し、お祭りの雰囲気を楽しみながら調理や販売を手伝ってくれました。

模擬店では、奨学金のパネルと大きな募金箱を設置し、PR にも努めています。興味を持ってくださった方から、活動内容や背景について聞かれることもあり、奨学生が質問を受けることもありました。このようなきっかけで多くの人にご理解・ご協力を頂けるようになればと思います。

次に 7 月 3 日(日)に灘チャレンジで模擬店とフリーマーケットに参加しました。灘チャレンジは、神戸大学震災救援隊という学生サークルと灘地域の人が開催している地域イベントです。天気予報は、午後から雨でしたが、雨は降らず、逆にすばらしい晴天となり、暑さの厳しい 1 日となりました。神戸まつりのメニューに加え、焼きトウモロコシという独自の新たな試みにチャレンジしましたが、イベントの日程が変更したせいか、購入してくださる方がやや少ない印象でした。甘くておいしいトウモロコシで、お買い得だっただけに、とても残念でした。フリーマーケットでは、暑さのあまりに都賀川で水遊びを始めてしまった子どもさんのためにタオルを購入してくださる親御さんが続出！というハプニングがありました。この日も奨学生が 5 名参加して、調理・販売、フリーマーケットの販売を手伝ってくれました。

最後に 7 月 15 日(金)に丸五ナイト屋台に出店しました。丸五ナイト屋台は、長田区の丸五市場で毎年 6 月～10 月の第 3 金曜日の夜に市場の店に他の店が加わって夜店を出し、アジアの屋台の雰囲気を楽しんでもらおうというイベントです。出店が夜なので、奨学生には参加してもらわず、スタッフのみで運営しています。メニューはチヂミ、フランクフルト、フライドポテト、枝豆、えびせんと飲み物にしました。準備した食べ物・飲み物をほぼ全て売り切ることができました。

3 つのイベントで多くの売上げを上げることができ、それらを奨学金原資に充てることができます。イベント参加は、秋～初冬にかけても予定があります、お時間ありましたらぜひお立ち寄りください。

(事務局ボランティア K.K.)

## 奨学生からのメッセージ

今回は、自分でテーマを決めて作文を書いてもらいました。

### Kさん (9 期生)

#### 「学校生活について」

1 学期を振り返って思ったことは、新しい友達もできて、部活も楽しくてとてもいいスタートがきれたと思います。

勉強面では特にわからないところもなく、成績も自分の思っていた点数よりもとれていたのうれしかったです。提出物もしっかりとできていたけど、授業中に自分から発表ができなかったので 2 学期ではそこを克服していきたいと思いました。

生活面では中学校のときより帰りが遅くなってしまいうので遅くなりすぎないように気をつけています。また、こういった変化により初めの頃はしんどかったけど、今ではもう慣れてきたので自由な時間をつかって、自分のしたいことや勉強などをしています。

人間関係の面では新しい出会いもあり友達がたくさんできました。文化祭などでは、クラスのみならず協力してとてもいいものができたと思います。またぼくのことを外国人と知っていながら優しく接してくれたので、そこはとても不安だったけど優しい友だちだったのでとてもうれしく思いました。

部活の面では毎日きびしい練習でも先輩や部活の仲間と一緒にがんばっています。中でも特にきびしい練習があってそこで先輩方や仲間たちに励まされたのでその時はとてもうれしかったし、「やってよかった」「これからもがんばっていこう」と思えました。ぼくはこういう先輩たちの背中をおいかけていきたいと思いました。

夏休みは部活と勉強をしっかりと両立し、時間がなくなると思いますが、その中でもがんばって弱い自分にも負けずに夏休みをすごしていきたいと思います。

最後にこの高校生活の一番の最初の 1 学期はとても楽しくて内容もすごく濃くて、とてもいいスタートがきれたのでこれからも初心を忘れることなくがんばっていきたいと思います。

### Gさん (9 期生)

#### 「一学期を振り返って」

私は、4 月に H 高等学校に入学しました。初めは、友達が作れるか学校の勉強についていけるかとても不安を抱きました。しかし、その不安はあっという間に消えました。友達は初日からつくれてすぐに仲良くなりました。朝から学校終りまで笑いっぱなしで時にはうるさすぎて先生に怒られたこともありました。それくらい学校生活は楽しいです。

学校の勉強は、今のところは分かります。校内英語検定ではクラスに 3 人だけの 100 点を取ることが出来ました。勉強したかいがあってとても嬉しかったです。

係では、体育委員に立候補しました。理由は、100 メートル走がクラス 3 位という成績を収めることができたからです。

5 月にあった体育大会では、クラスを引っ張って見事に 1 学年のクラス中 3 位になることができました。

した。私のかけ声やリードに合わせてクラスの心が一つになりました。こんな私でもクラスをまとめることができたことで大きな達成感を味わいました。

また、大縄大会では、上級生に混じって決勝戦に出場することができました。私は、今体育委員長の仕事に燃えています。

6 月の中頃に 3 者面談がありました。何を言われるかドキドキしましたが、他の先生にも評判がいか期待されているとか英語の発音がいいとかほめられました。苦勞して育ててくれている母は表面には出さないけど内心では喜んでるのがわかりました。

しかし、いいことばかりじゃありませんでした。授業中に居眠りしたことが母に分かってしまいました。これからは、気を引きしめてしっかり授業を受けようと深く反省しました。

期末テストでは、中間よりいい点数が取れてとても嬉しかったです。中間では 15 位でしたが、期末では 10 位になりました。努力した分は返ってくるんだなと実感することができました。1 学期の通知表も自分の中ではよかったと思います。

1 学期を振り返って、とても楽しい高校生活がスタートし、送れていると思います。これも奨学金をくださったみなさんのおかげだと本当に感謝しています。

2 学期もがんばりますので見守って下さい。

## P さん (9 期生)

### 「高校生活」

僕は今年、志望高校に合格することができました。その高校に入学してから多くの友人をつくることができ、現在でも仲良くしています。クラスがとても楽しく、授業も興味が湧いてくるような内容でとても楽しい授業です。中学校時代は勉強と授業が嫌いでした。自分は今、授業も勉強も好きになり、毎日学校に通いたいと思うようになりました。

高校に入学してから一番不安であること、それは勉強とテストです。すでにこの壁に衝突してしまいました。中学のときになかった中間を初めてすることになり、さらに中学と違って 5 教科ではなく、それ以上の教科を勉強しなければなりません。不安が大きくなり、先輩に話を聞いてもらうことにしました。僕は中学のとき、いやその前からも一回も塾に通うことがなかったため、先輩にいつも通りの勉強方法をやれば大丈夫と言われました。そう言われたことから、一安心しました。そして中間テストが近づいていき、先輩に言われたと通りに勉強しました。いよいよ中間テストの日になりました。ドキドキと緊張しながらテストを受けました。

悲しいことに結果は思ったより良くはありませんでした。ハイレベルな高校というのは思った以上にとってもハイペースで難しかったです。このことで不安が大きくなり、これからの高校生活が一気に不安につつまれました。

中学と比べて、勉強することが多くなり勉強がとても大変になりました。このように考えていくとやる気が出なくなりました。でもそのときにあることに出会い、気づいたことがありました。

ある日、学校のイベントで海外についてのプレゼンテーションを受けました。自分はどれだけ幸せであるのか、どれだけ勉強ができるチャンスがあるのかを改めて感じました。自分の第一志望に合格することもでき、こんなに良い学校に入学し、学校生活を送ることができると考えると、自分は本当に幸せであることを感じました。家族、友人などのようにいろんな人たちにかこまれて、応援されています。だから、このチャンスを逃がさないようにして、勉強をするべきだと強く思いました。この思いを忘れずにこれからの勉強につなげたいと思います。このチャンスは今しかないと感じました。

このチャンスを良く使い、自分の未来のためにつなげることにしたいと思います。いろんな人たちに支えられ、応援されているのでその人たちのためにもがんばりたいと思います。

## Kさん (8 期生)

### 「高校 2 年生」

高校生活の 1 年目が終わり 2 年目に入りました。勉強が難しくなり授業に追いついていくのに必死です。部活動では後輩が入り、去年よりとても忙しい 1 学期を過ごしました。

毎年 6 月に行われている文化祭では、新しいクラスで展示をすることになりました。企画から文化祭の発表まで意見のすれ違いや時間の取り方など、色んな困難がありましたが、みんなで頑張った作品が今学期 1 番の思い出です。また、部活動の関わりで他校の子と仲良くなり、一緒に遊んだり、寄り道をして帰ったりと去年とは違う日常を過ごしたのでとても新鮮な気持ちでした。

そして、2 学期をより充実した学校生活を送ろうと思うと、この夏休みに自分がすべきことをしっかりとやらなければいけないと思います。例えば、勉強、部活、補習など。課題の量も多く、少しずつやっていると提出期限に間に合いません。時間の工夫を今のうちにちゃんとやって、受験の時に困らないようにしたいです。

話は変わりますが、僕はこの夏休みに「マレーシア、オーストラリア国際交流・語学研修プログラム」に参加します。前回の作文にも書きましたが、7 月 28 日から約 2 週間ほどの滞在になります。マレーシアではバディーの子が決まり、オーストラリアではホストファミリーの子が決まっており、メールのやりとりをしています。メールでは文章を考えて送れるのですが、実際行って喋るとなるとちゃんと喋れるのかとても不安な気持ちでいっぱいです。ですが、研修中はこの“Love mistakes!” をモットーに過ごしていきます。不安はもちろんありますが、それで内気になるのはもったいないことで、語学力を上げるのはもちろん、沢山のひとと喋って仲良くなれたらいいなと思います。そして研修生みんなの思い出も沢山作って、充実した研修になるように頑張ります。

2 学期もこの調子で頑張っていこうと思います。

## Bさん (8 期生)

### 「テストの点を上げるために、この夏休みをどう過ごすか。」

学力を上げるためにすることは復習と問題練習です。自分はテスト前に復習することが多く、毎日復習をすることが身につけていませんでした。なので今年の夏は計画を立てて必ずそれを実行することを目標にします。

計画を立てたら、自分の目につく場所に紙をはって、こなし物からチェックをつけていきます。そして計画通りにできたことが目に見えるようにカレンダーに書き込んでいきたいです。

数学は簡単な計算問題を起きたらすぐにして、それを習慣づけます。朝は数学など思考力を必要とする問題を解くのに適しています。さらに、起きてから 3~4 時間後最も脳は活発に動くので、午前中は徹底的に数学をします。

人間の集中力は 1 時間半が限度なので、数学の後は国語をします。その後、緑茶などのカフェイン

の強いものを飲み、昼寝をします。最近、食事の時間がとても乱れているので、この午前中の予定をしっかりと守って、体の調子を整えていきたいです。

夕食後の夜は記憶ものをします。これは夜の睡眠中にその日のことが短期記憶から長期記憶に変わるためです。なので 15 分ごとに、英単語・英熟語・古文単語・漢文文法をしていこうと思います。

すでに夏休みの午前と午後と夜の計画を立てています。これを実行するために必要な物は、自分に負けない強い心です。たまに、「どうして勉強するのだろうか」とか「大人になったらどうなるのだろうか」などと考えています。勉強をすることで知識が増え、その知識が大人になった時に仕事でいかされます。さらに、勉強を続けることで自分の心をきたえることができ、大人になった時に理不尽なことにも耐えることができるようになります。

今年の夏は自分を成長させるためにも、計画をしっかりと実行していきます。そして、新しい気持ちで 2 学期を迎えることができるようがんばります。

## D さん (8 期生)

### 「今年中に達成したい目標」

高校 2 年生になってから、約 4 ヶ月が経ち、いよいよ夏休みになりました。私の中では高校 2 年生の夏は、高校生活の中ではとても大切な期間です。だから、無駄にせずに、計画的に過ごしたいです。充実した夏休みを過ごしたいです。そのために、やはり必要なのは勉強です。そして今一生懸命に取り組んでいるつもりの部活も必要です。また、一番大切なのは、進路について考えることと、今年の 10 月にある海外研修の準備が必要です。しかし、やはり一度きりしかない高校生活だから、友達とたくさん遊びたいです。やりたいことがたくさんあるので、計画を立てたいです。計画を立てるのは苦手ですが、今回こそちゃんとやりたいと思います。

まず、勉強は課題テストに向けて、夏休みの宿題を 3 回復習をする勢いで、何度も間違えた問題や苦手な分野をやり直そうと思います。また、英検準一級の勉強はぜんぜん進んでいないので、買った問題集と単語帳を中心に勉強を進めていきたいです。

2 つ目は、部活です。ほとんどの先輩たちが引退を迎え、2 年生を中心としたチームになりました。同級生でお互いに支え合って、1 年生をしっかりとひっぱりたいです。また、毎回の練習は目標を決めて、できないことを少しずつ克服していきたいです。そして毎回さぼってしまう部日誌をきちんと書けるようにしたいです。

最後は、進路についてです。去年は、進路のことをまったく考えなくて、1 つも大学のオープンキャンパスには行かなかったけど、今年は進路先で気になる大学がいくつかあったので、そのオープンキャンパスに行き、雰囲気をつかめたいです。

以上、これで夏休み中にやりたいことを書きましたが、いつもみたいに言うだけ言って、何もやらないまま、夏休みを過ごしたくないので、気合いを入れて、計画を立て、目標も決めて、それに向けて頑張りたいです。そして終わったあと、充実感と達成感であふれるような夏休みにしたいです。

**I さん (7 期生)****「受験生の私が、涙を流したこの夏」**

教室の窓を挟んだ向こう側には、沢山の蝉がのんびりと木の上において、恐ろしいことは今年の彼らの鳴き声がやけに勢いを増していた。

そのせいか、学校へ行く道のアスファルトまでも歪んで見え始めた。

「優勝したのは 3 組。」というマイクから出た声は、太鼓のような音で、私たち 1 組の一人一人の心に響いた。みんなの繋いだ手が離させられるほど大きかった…

今年の文化祭の日は特に暑かった。受験生の私たちにとって残り少ない学校行事は今までになかった大切さをもたらしてくれた。3 年生が披露するのは学校中の注目を集める劇であった。シナリオは『ウェストサイドストーリー』を参考にして、私たちのオリジナルの物語ができた。最初の頃、馴染みのない話だったので、みんな誰もが心配していた。大まかなストーリーの内容は、20 世紀中頃のニューヨークを背景とした 2 つの民族の異なるギャング集団の争いの中に挟まれた二人の愛情を描いたものである。ジェット団とシャーク団の縄張り争いがずっと続いた。その中でマリアとトニーはダンスパーティーでひとめぼれし、お互い愛し合った。だが、対立する運命にしかならない 2 人だった。マリアはシャーク団のリーダーベルナルドの妹、そして、トニーはジェット団の創始者で元リーダーでもあった。喧嘩のない仲介の場で、2 つの団体が集まり、ダンスをすることが昔からの習慣だった。しかし、ある時、ダンスパーティーでいちやくも決着をつけたい 2 人のリーダーは縄張り争いの決闘を申し込んだ。そのことを知ったマリアは、トニーに止めてほしいとお願いをしたが、トニーがその場にたどり着いた時にはもうすでに決闘が始まっていた。2 人のリーダーの闘争で乱雑になっていた中で、新しいジェット団のリーダーリフが殺された。喧嘩を止める目的であったトニーは、殺された自分の元部下を見て、あまりの怒りに頭を狂わせた。ジャーク団のリーダーでありながら、トニーが愛するマリアのお兄さん、ベルナルドを殺してしまった。マリアはそれにもかかわらずトニーと居たいと知ったマリアの婚約者は、マリアが憎くなった。マリアに会いに来たトニーを拳銃で撃ち、大好きな人の腕の中で死んだ。結末は、喧嘩で何もかもを失ったマリアを見た 2 つの団体のみんなは、争いをやめ、1 年後、また同じあのダンスパーティーの会場で仲良くしていた。

練習の始まりは躓くことばかりだった。朝早く、夕方遅くまで場面ごとの練習をしていたのにもかかわらず、合わせることがとても難しく、作品の雛形すら見えなかった。いくら練習しても成果が見られなかったが、だれ一人文句をいうことはなかった。ましては、昼ごはんを食べている時でさえセリフを練習していたみんなでした。ほんとに一人一人がこの劇に自分の思いが注がれていた。そして、本番の 3 日前にやっと、劇らしく良い作品になったと先生方に褒められた。が、自分たちはもっともっと練習を積み重ね、一緒に汗を流しながら本番を迎えた。

舞台の幕が下ろされるとともに、熱意が積もった拍手音は今までになかったほど力を感じた。

いよいよ、結果発表の瞬間がやってきた。優勝を確信した私たちは隣の人と手を繋ぎ合わせ、ただ最後の「1 組」がマイクから飛び出すのを待っていた。が、それは不本意な「3 組」がマイクから聞こえた。思わず、涙は頬を流れて床に落ちるみんな…

最後の最後までこの劇に思いを託した私たちには、今までになかった団結力を得た。優勝できなかった悔いはあるが、それは受験へのやる気にもなり、もっと頑張れる気がした。

そして、来年の今は、自分が選んだ大学で悔いなく笑っていたい。

**S さん (7 期生)**

## 「カミングアウト」

3 年生の春を迎えて早 3 ヶ月が過ぎようとしています。周りの友達も部活を引退し、受験勉強に本腰を入れ始めてきました。6 月中旬には全国模試を受けました。きっと第 1 志望の大学の合格ラインにはまだまだの点数だったと思います。担任の先生にはもっと良い点を取っていると思っていたと言われ、恥ずかしく思うとともに悔しい気持ちになりました。私は「先生にとって私はもっと結果を出せる生徒だったのに先生の思うほど良い成績を残すことが出来なかった。先生や親の期待、きっと自分自身の期待にも応えることが出来なかったのだ。」と悲しい気持ちにもなりました。

ここ数カ月、もし大学に合格できなかつたら私はどうすれば良いのだろうととても悩んでいます。ひとつだけ絶対にすると心に決めていることは、合格したとしても、しなかつたとしても、私は高校卒業と同時に家を出るということです。これ以上母に負担をかけられないからです。だから、高校卒業後はどこに住もうかということについて悩んでおり、不安に思っています。可否に関わらず、不合格だった時でも家を出て一人暮らしをするなんて社会に対する考えが甘いのかもかもしれません。結局、卒業しても母に負担をかけ続けてしまうかもしれません。

2 年前、私が高校 1 年生だった時、本奨学金をいただく為に面接をうけさせていただきました。私は将来の進路について訊かれた時、「生物がとても好きなので医療関係の仕事に就こうと思っています。」と答えました。確かに生物は大好きでした。今でも生物には大きな関心を持っています。でも、本当はキャビンアテンダントになることが夢でした。高校 2 年生の時、医療関係の進路には莫大な費用がかかると思い、物理選択をしました。そして、建築関係の進路に進むことにしました。近頃は、安定した生活を送るために公務員になるのも良いのではないかと考えるようになりました。公務員になると言っても外国籍を持つ私にとって不利になることがあるかもしれません。悩んでいることはまだまだあります。今決めていることは、未来になればどう変わるか分かりません。

ある日、こんな言葉と出会いました。「悩むのは努力しているから。迷うのは考えているから。」。私はこの言葉に勇気ももらいました。もしそうなら、私は努力して考えていることになります。少なくとも自分に出来ることはしているのだと思うことができました。結果がどうなろうと、今苦勞をしている過程をもっと結果に繋がられるように私は進化し続けなければなりません。